

新宅 道和 選

特選

いつこ上いとこの姉ちゃん浴衣着て姿はまるで打ち上げ花火

庄原市立西城中学校二年 檜田 歩由

【評】けんか相手の従姉。花火大会の浴衣姿にドキリとした。少し乱暴な「姉ちゃん」にみえる作者の気持ちが微笑ましい。

友と友どちらの肩を持つべきか間に挟まる私は団子

廿日市市立廿日市中学校二年 宮地 紗葉

【評】対立する二人はどちらも友だち。二人の言い分も聞いているうち、こすられて少女はお団子になってしまった。

勉強をしたくないのにしてしまう受験のことがとても不安で

福山市立駅家中学校二年 石川 巧都

【評】勉強しなければならないにしないのが凡人。でも作者は追観念からでも勉強をする。志望校合格は間違いない。

あついなつ水ふうせんでなげあそび早くにげようでもあたりたい

庄原市立東小学校二年 中村 円架

【評】 水ふうせんに当たりたくないけど、当たってきやあきやあ言いながら楽しみたい気持ちもあるのを上手に詠んだ。

目覚ましに勝つた朝はなんとなく未来をちょっと変えた気がする

福山市立幸千中学校二年 佐藤 佑梨

【評】 目覚まし時計が鳴る前に起床したのをちょっと大げさに詠んだところが面白い。「朝」は「あした」と読みました。

隣から見てるカエルがまばたきしもしかしてこれ恋の予感か

呉市立呉高等学校三年

宮崎 美桜

コンクール心臓バクバク舞台そで「すごいうまい」思わず言つた

尾道市立向東中学校三年

光野 愛花

初めてのライブ始まる直前のチューニング聞き気持ち昂ぶる

県立呉商業高等学校一年

津金 虎琉

もう後半エンジョイして夏休みまだまだあるし明日でいいや

福山市立駅家中学校二年

梅田 雅日

妹が大きく口開けほおばつたあんこはみ出るかしわ餅を

三次市立布野中学校一年

竹口 彩音

香川での練習試合で初めてのピッチャーマウンド深呼吸する

三次市立布野中学校一年

福間 悠太

「ちょっときて」家族に呼ばれる日曜日小さな小さなスイカがあつた

福山市立幸千中学校二年

川上 天女

暑い夏つめたいゆかでぼくとねこ気持ちいいねといつしょにおひるね

庄原市立東小学校四年

山王 楓真

あつすぎてはつぱのかげにかくれんばかりの足にもくつあげたいな

庄原市立東小学校三年

中野 郁実

ネイルしてリップをぬつておしゃれしてはやくわたしはおとなになりたい

庄原市立東小学校一年

大田 咲友里

ゲーム中ふと外見ると「あつ虹だ」思わず手を止め靴履き外へ

福山市立芦田中学校二年 景山 春希

入道雲見てると自分が小さくてなんだか少し走りたくなる

安芸高田市立吉田中学校二年 三浦 陽

自宅からカレーのにおいれしくてキッチンのぞくとまさかのうどん

廿日市市立廿日市中学校二年 中村 真子

憧れのセーラーだけどホントはねリボン結ぶのメンンドクサイの

県立広島皆実高等学校一年 西原 鈴

花火まだできてないのに夏休みしづかにすぎたなんかさみしい

福山暁の星女子中学校二年 高橋瑠莉子

幼き日祖父に連れられ行く水路しなる竹竿笛を舞う力二

呉市立阿賀中学校二年 祝 龍汰

餅まきで近所のおばさん若返る紅白もちを両手で抱え

呉市立呉高等学校三年 兼藤 杏花

自家製のキュウリの曲がり覚えありおもいだすのは祖父母の背骨

県立広島皆実高等学校二年 石川直太朗

夏休みしめきりまえのしゅくだいを夜には母にたよつて終わる

庄原市立東小学校三年 爲藤 百

真夜中に登校してきたみたいだな雨の日の外まつくりいとき

広島市立祇園東中学校二年 神野 葦

新宅 道和 選

特選

いつの日かこの一分の暗闇がひかりになれと握る小さき手

広島市 浮田 大樹

【評】「一分の暗闇」は黙祷のことか。作者は子どもと手を繋いで祈ったのだろう。作者と同じく「ひかりになれ」と願う。

会議場の広き空間黙深し原爆死没者名簿の揮毫

広島市 伊藤 恒子

【評】新たに亡くなつた被爆者の名を名簿に書き加える光景。「広き空間黙深し」から厳かで静謐な作業の様子が伝わつてくる。

ねんごろに父の義手干す秋晴れの庭にいちにち蜻蛉とびかふ

福山市 林 すみ

【評】義手を干すという珍しい光景。ご苦労があつたと思われるが、「秋晴れの」以下で今の穏かな生活が想像できる。

いにしえを慈しむごとからすうり白き花もて廃家をおおう

広島市 高本 寿子

【評】なんだか妖しいからすうりの花だが、慈しむように廃屋を覆つている。「天空の城ラピュタ」のロボットのようだ。

皆が皆スマホに夢中の車内にて桜並木を独り占めする

広島市 山口 順子

【評】殆どの人がスマホを見ている電車の中で、作者は景色を楽しんでいる。結句の「独り占めする」が効いている。

連休がわが家の前を素通りし両手広げて待つ家に行く

呉市 平賀 敏子

満州の考と妣との物語姉は日本に辿り着けずに

広島市 ⑦パパ

片足を無くした夫に励ましの言葉探して車椅子押す

広島市 西岡 昌子

十二年働き続けた炊飯器壊れて今は時だけ刻む

庄原市 松園 和子

道の駅の喫煙ルームの梁の上身を乗り出して鳴くつばめの子

廿日市市 辻 美恵子

売り切れのランプが並ぶ自販機で待機しているコーンポタージュ

広島市 羽城 裕子

音満つる朝の厨は落ち着かぬパンが焼けたぞ洗濯できたぞ

広島市 小坂 修

おはやうの挨拶代りに蚊が止まるわれもぱちんとお返しをする

福山市 木戸 博恵

耳鳴りの続く淋しさ空をゆく雲に音あるごとく聞こゆる

福山市 杉之原壽美

半数が癌となりたる世となるか「風邪」告げるよに「癌」告げる

広島市 越智 隆義

医

核ボタン押す人わずか犠牲者は幾千万の老若男女
銃口をおき思い出せくちびるに百万本のバラの歌声

三次市 山本 圭子

呉市 清水 孝子

賑わえる夜店で買いし狐の面もどりて一人の真夜を被れり

広島市 田中 博子

川沿いのバラック暮らし馴れた頃くじが当たりし高層アパート

広島市 小西 博子

遙かなるニューギニアにて餓死せらる伯父に供える大盛りの飯

三次市 林 章子

実の裂けて赤き種粒の彈けたる枝垂れてこぼるる苦瓜の夏

広島市 松田高加子

自転車に妹二人乗せ五里の砂利道行きぬ父の見舞いに

広島市 中村 武

炭化せし幹癒やすがにアオギリが季来れば黄の花殻を敷く

広島市 大多和 義

生かされて今日も美味しいしようがの湯デーサービスは最後の楽園

尾道市 卒寿姫

モルダウのかすかに聴こゆ馬洗川鵜のかがり火が水面を照らす

三次市 林 敏明